

非認知スキルを育てる「地域参加型プログラム設計ガイド」

この設計ガイドは、地域活動を通じて子どもたちの非認知スキル（協調性、責任感、共感力、自己管理能力など）を育てることを目的に、教育現場や家庭、地域団体が連携して取り組むためのプログラム設計の手引きです。

【1】非認知スキルとは

非認知スキルとは、学力テストでは測りづらいが、社会的成功や人間関係の土台となる能力です。例としては、協調性、自己制御力、責任感、感情コントロール、共感力、粘り強さなどがあります。

【2】地域参加を通じて育つ力

- 社会とのつながりを体感することで“公共心”が育つ
- 多世代との交流を通じて“共感力・伝える力”が身につく
- 実際の課題に関わることで“自己効力感”が生まれる

【3】プログラム設計の5ステップ

1. 目的設定：どの非認知スキルを育てたいか決める（例：責任感）
2. 活動選定：地域にあるリアルな活動を選ぶ（例：ゴミ出し当番、公園清掃）
3. パートナー探し：地域の自治会やボランティア団体と連携
4. 学びの設計：活動の前後にふりかえりや記録ワークを組み込む
5. 評価と共有：子どもの声・成長を保護者や地域と共有する

【4】活動テンプレート例：ゴミ出し当番

- 対象：小4～中学生 ● 期間：1ヶ月間（週1回）
- 活動内容：
 - ゴミ置き場の清掃・掲示確認
 - 分別ルールの特検
 - 挨拶・声かけ体験

- ふりかえり：
 - 何を感じたか？誰の役に立てた？自分の行動を振り返るシート活用

【5】非認知スキルを伸ばすための工夫

- 子ども自身が「役立っている」と実感できるようにする
- 成果より“過程”や“態度”をほめる
- 親子で一緒に取り組む機会をつくる
- 活動後のふりかえり（文章やイラスト）を記録し、本人と共有する

【6】まとめ

地域に根ざした活動は、教室では得られない“生きた学び”の場です。非認知スキルを育てるには、子どもたちが“自分で感じ・考え・動く”経験を地域と共にデザインすることが大切です。